

NPO 法人環境市民 理事会 第 8 期 第 3 回 (通算 76 回) 理事会 議事録

日時：2016 年 1 月 25 日 (月) 午前 10:00-11:50

場所：こどもみらい館 4F 会議室 A

理事の総数：15 名

(以下、敬称略)

出席者：(理事) 有川真理子、杵本育生、下村委津子、瀬口亮子 (skype)、早瀬昇、牧村好貢、以上 6 名、(事務局) 佐藤寛也、野村哲司、風岡宗人

委任状提出者：植田和弘、上田正幸、内田洋子、片山雅男、白石克孝、花田真理子、原田紀久子、松田直子、以上 8 名、議長へ委任。

議長：牧村 議事録係：風岡

議事録署名人：杵本、下村

■報告事項

1) 事業報告

・創造ネット 報告者：風岡/杵本

10 月 8 日 再エネに関するセミナーを実施、満席に。開催タイミングとテーマがよかったか

10 月 26～27 日 北栄フォーラム 来年度宇部市で開催

11 月 17 日 環境省へ提言を行った

12 月 COP21 で紹介

創造ネットの会費をとることになった

・持続可能な消費 報告者：有川

地球環境基金から助成金を受けている

青森、熊本、金沢でセミナー、リーダー養成開催→地域により参加者の多寡があった。金沢は大勢が参加した。

昨年に引き続きスーパー調査 現在集計中

消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク 1 月 19 日発足 環境、消費者団体、人権、動物の福祉など多様な団体で構成

・気候変動・生物多様性セミナー 報告者：杵本

オムロンからの助成金で実施。

120 名ほどが参加

10 万ほどの黒字

参加者の満足度も高い

2) 借入れについて 報告者：有川
300万円を銀行から借入れを行った（利子はなし）
年度明けに助成金が入り次第返済する
理事のみなさんからの借入れをいただいた

■討議・決定内容

寄付キャンペーンについて

1) 賛同人について

- ★賛同依頼文について 意見を受けて事務局で修正し、修正案を提示する。
- ★賛同人リストについて 下記のポイントを押さえたメンバー構成にする。
 - ・30代、60代両方にインパクトのあるようなメンバーを揃える。
 - ・お店の方、経営者の方などをお願いする。

2) 寄付目標金額について

目標金額 300万円とする
期限は2月半ばから3月31日まで

3) 寄付をどう集めるか

きれいなパンフレットを印刷する。

来年度の体制について

有川は有給スタッフは続けるが仕事の範囲を限定（持続可能な消費のみ）したい意向
風岡は有給スタッフを辞する意向
佐藤は有給スタッフを辞する意向
野村は要請があれば継続意向
4月以降のスタッフの募集について今後急ぎ検討、3月までに決定、引き継ぎを行う。
以上の事務局体制の状況について、同意した。

■討議事項（発言内容摘録）

寄付キャンペーンについて 説明者：有川

1) 賛同人について

★賛同依頼文について

有川) 呼びかけ文案、賛同人について意見をいただきたい。

早瀬) 期限と目標額を入れるべき

杵本) 2月中旬には始めなければならない

野村) 会員数を増やさなければ根本的な基盤強化にならない

早瀬) 両方必要。会費には寄付金控除がないことも考えるべき。会費よりは寄付のほうがハードルは低い。

杵本) 野村さんの意見は正論だと思う。会員に支えていただくのが理想だが、かなり計画的な募集が必要で今からは時間が足りない。

下村) 会員募集はセミナー開催時や何かやりたいというタイミングにすべき。

佐藤) 財政再建の一環としてマガジン休刊、事務所移転について触れていないのはどうか。

早瀬) 理想的には「財政が厳しいから助けてくれ」よりは、「社会を変える方法としてこういうプロジェクトが必要であり、あなたも参加できるよ」というメッセージになる。アプリも欧米ではすでにある、と聞いて、日本もできると思った。

杵本) 面白さ、ワクワク感が必要。

下村) 賛同人は強いシンパシーを持っている方なので、環境市民への期待を感じさせるようにすべき。

杵本) おもしろそう、ということが大切。今回は賛同人への呼びかけ文をよりわかりやすくしたものを一般向けに作成するという感じか。

早瀬) 寄付とともに、入会への入り口も設けておいていいかもしれない。

牧村) 財政基盤の状況説明がさらっとしすぎている印象を受ける。

下村) 願いを受け取る側に立ってみると、財政基盤を強調過ぎるとそのあとの内容がいわからにしか見えなくなるのではないか。

早瀬) ほんとうにできるの?と思われても困る。

杵本) 大規模なプロジェクト寄付を集めた経験がないのでわからないところが多い。

牧村) 文章量のバランスとしては、プロジェクト:基盤=8:2 くらいの比率でいいと思う。

早瀬) 欧米の状況を紹介しては？

佐藤) 全体のメリハリについて、ここが売りというところを強調したほうがいいのでは。何をすることがポイントだと思うが、ぱっと見た瞬間に目に入ってこない。

早瀬) ゴシックで強調するか。

瀬口) 賛同お願い者として杵本代表一人だけ記載されているが、FoEでは「スタッフ一同」を使う。活動に取り組む人の顔を思い浮かべて寄付するので。全体的にあまり長文にならないほうがいい。

佐藤) もともと 200 万くらいの赤字を埋めないと新しいことに使えない。

杵本) コンパクトに、欧米の事例を入れてこんなのができたらおもしろい、というものにしてほしい。今日のご意見を入れて修正版をつくり、理事の皆さんにお知らせする。

★賛同人リストについて

- ・堀さんの肩書は変わっている。
- ・30代、60代両方にインパクトのあるようなメンバーを揃える。
- ・お店の方、経営者の方などをお願いする。

杵本) 賛同人の中から、メッセージをいただきたい。

これらの方針で精査して依頼を行う。

2) 寄付目標金額について

佐藤) 資料3の会費は現時点のものが入っているので、収支はマイナス200万円くらいになると思われる。繰越を入れると利益余剰金合計はマイナス270万円くらいになる。

杵本) できていなかった減価償却を入れるとマイナス70万ほどプラスになる。

佐藤) 単年度の赤字解消なら200万、債務超過も解消しようとするれば270万になる。

佐藤) 最低 100 万円寄付を受ければ運転自体は回ると思われる。

杵本) 本当に持続可能な消費をやろうとすれば、赤字額 200 万だけでなくプロジェクトを実現できる額にすべきか。

早瀬) 企画段階で目標額の 3 分の 1 は成約できていなければならない。目標 300 万円なら、100 万円はどこから、50 万円はどこから、と細かくターゲットを分けて集めなければ、闇雲にやっても集まらない。会員外へのアプローチ法はないのか、ネットから寄付をいくら位見込むかなど。例えば JapanGiving のように、目標を定めて積み上げていく必要がある。セミナー参加者への依頼なども効果ありか。

杵本) 2013 年のキャンペーンでは賛同人からいくら位集まったか分析が必要。行事参加者も含め積み上げる必要がある。来期に少しでもお金を回していくためには 300 万をめざしたい。

有川) WEB サイトをつくる場合は多額の費用がいる。その場合、再度 WEB サイト作成のために Readyfor!などで寄付を募るのは難しい気がする。

牧村) WEB にどれくらいかかるか。

有川) データベース、双方向性を組み込めばかなり高くなる。200~300 万くらい?

杵本) 助成金で数十万の予算がある。WEB サイトそのものは別にクラウドファンディングを使ってもいいと思う。

早瀬) 映画や本作成への寄付だと名前が残る。WEB サイトはどうか?

下村) キャンペーンの間接報告でお名前を入れている場合もある。

佐藤) 前回は 5 万円以上の寄付 37 名で 185 万円を占めている。

杵本) 寄付コースを設けたほうがいいのかもわからない。

3) 寄付をどう集めるか

杵本) パンフレットを作成するかどうか。費用は 5~6 万か。

早瀬) 欧米のアプリなどでていたら訴求力あるのでは? 賛同人リストを入れる。寄付は接点ポイントをいかに増やすか。その意味であったほうがいいかもしれない。

来年度の体制について

杵本) 来年度の予算を組んでいる(資料 5)。個人面談の結果を本人の意向のみ報告する。来年度のプロジェクトを実行するための具体的な人選まで議論したい。

杵本) 風岡は有給スタッフとしてはやめたいとのこと。有川はスタッフとして残るが自分の担当をある程度絞りたい、持続可能な消費プロジェクトのみに絞りたいとのこと。佐藤は今後ステップアップしたいとのことをやめたい、とのこと。野村は要請があれば残る、という意向。

代わりの人材として、何人か具体的な名前を聞いておりお声がけしていく予定。

佐藤) 月給 15 万円は低すぎる。またデザインや WEB ライティングスキルがある方が必要ではないか。

野村) 創造ネットはどう運営するのか。

杵本) 創造ネットでは会費を徴収、NGO ネットでは助成金がとれればということ。引き継ぎ期間は風岡から有給対応でもお願いしなければならないかもしれない。

野村) インターネットに精通した方が必要では。

杵本) 今の予算は確実なところのみになっている。NGO ネットで助成金を受けられればさらに人を工面する必要がある。

有川) 広報面のスタッフは別途工面が必要。基本給は理事会で考えてほしい。15 万でやっていくのは困難。新たな人材を呼ぶとすれば難しいのではないか。増額できないなら時間を削るなど柔軟な働き方を認める必要があるのでは。

野村) まだやりたいという気持ちがあるが、そういう気持ちをどう引き継いでいくのか。

佐藤) 可能であれば 3 月中に引き継ぎをお願いしたいと伝えている。

杵本) 3 月から来ていただいて引き継いでいただければと思っている。

風岡) 私の仕事は事務局業務であればだれでも引き継ぎ可能と思っている。

下村) フルタイムでなくてもいいのではないかと、思っている。力を持っているがフルタイムで働けないという人もいる。

杵本) 本来、基本給を上げられれば上げたい。会員も現状が少なすぎるという考えから、もっと増やしていくこともしていきたい。目下、4月以降のスタッフは埋めなければならない。

牧村) 一人はフルタイムが必要ではないか。

佐藤) 助成金によってはフルタイムが必要、というところもある。

杵本) 環境団体は軒並み苦しんでいる。そのためにグリーン連合をつくって全体の底上げをめざしている。

佐藤) ある程度条件を設定しないと人を集められない。人づてだけでしか集められないのはまずい。

杵本) 公募すれば人は来ると思うが、ほんとうに仕事ができるか不明。過去、公募でいい人を選ぶのは難しかった。できれば知っている方で能力のある方を先に探したほうがいいと思う。あと1ヶ月で目鼻が立たなければ公募もありうるが、まったくの新人は難しいのでは。

下村) 時間的に厳しいので、フリーランスの方に期間限定でも来ていただく方法はあるかもしれない。

牧村) フルタイムを一人、あとはパート、という方法と、すべてパートタイムという方法どちらかしかない。

早瀬) 緊急避難的にはそれでもいいかもしれないが、本来的にはフルタイムがいないと連絡調整のコストが高くなる。結局は収入を増やすしかない。

杵本) 現在の予算は最低限で、グリーンウォッシュやマイスター事業で増えていくと思う。

瀬口) 現在の状況では常にスタッフがいるという状態を保たなければならないのか、火木金だけとか。後者でもいいとは思いますが。

杵本) 現状、私がフルタイムに近い状態にいる。あまりよくない方法だ。下村さんにどこまでお願いするか、ということも要検討。

瀬口) シフトを組むとか方法はある。

下村) 出張以外は毎日いるので、ある程度は賄えるのでは。

野村) 営業職、企画職と事務職がいっしょにいないと組織が成り立たない。役割として完全に分けたほうがいい。

以上